



## 6日の海外市場 NYダウ3日続伸、強まる利下げ観測



**株式**  
米株式市場でダウ工業株30種平均は3日続伸し、前日比78ドル84セント（0.20%）高の3万8886ドル17セントで終えた。米連邦準備理事会（FRB）の利下げ観測が根強く、投資家心理の支えとなった。半面、前日にハイテクや半導体関連株を中心に上昇した後で、利益確定の売りは重荷となった。

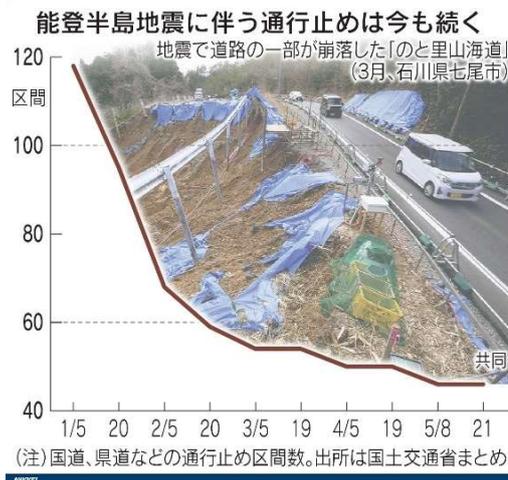
**債券**  
ニューヨーク債券市場で長期金利の指標となる10年物国債利回りは4.29%で終えた。前日に長期金利が4月上旬以来の低水準を付けた後で、債券には持ち高調整売りが出た。7日に5月の米雇用統計の発表を控え、様子見姿勢が強かった。

**為替**  
ニューヨーク外国為替市場で円相場は反発し、前日比45銭円高・ドル安の1ドル=155円60～70銭で取引を終えた。朝発表の米国の経済指標が労働需給の緩和を示した。FRBの利下げ転換に時間がかかるとの観測が後退し、円買い・ドル売りが優勢となった。

**商品**  
ニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は続伸した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の7月物は1バレル75ドル台後半で取引を終えた。FRBによる年内の利下げ転換を見込み、原油需要が底堅さを保つとの見方が広がった。需給緩和の観測が後退し、買いが優勢となった。

## 地震で道路寸断、遅れる備え 17府県に「復旧計画」なし

能登半島地震が引き起こした土砂崩れなどによる道路の寸断は、広い範囲で救援活動を妨げた。石川県など被災自治体に道路復旧の手順を定めた計画がなかったことが、初期対応を遅らせた可能性がある。国によると5月末時点で同県を含む17府県に道路の復旧計画がなく、迅速な救援を実現するには早期の策定が不可欠だ。



最大震度7を観測した能登半島地震によって、地域の大動脈ともいわれる国道を含め、多くの道路で土砂崩れや道路の陥没、アスファルトの割れといった被害が相次いだ。新潟、富山、石川の3県で通行止めは最大で110区間を超え、5月末時点でも46区間で続く。

複数箇所で陸路が寸断されたため物資が不足する避難所が目立ち、孤立した集落の住民は最大で3000人を超えた。孤立解消は元日の地震発生から1か月以上たった2月13日だった。

速やかに道路の寸断を解消し、救援を進めるためにあるのが「道路啓開計画」だ。地震や津波を想定して復旧を優先する道路を定め、がれきの除去や段差の補修を急いで緊急車両が通れるようにする。関係機関との連絡、必要な資材の確保も盛り込まれる。





道路の早期復旧の重要性が認識されたきっかけは2011年の東日本大震災だ。津波によるがれきが大量に発生して東北地方の広いエリアで道路が寸断された。

国は同年末、防災基本計画に自治体などの道路管理者があらかじめ道路啓開の計画を立てると明記した。

ただ、計画を持たない地域は多い。国土交通省によると、5月末時点で17府県が策定していなかった。南海トラフ地震や首都直下地震などの影響が比較的小さい日本海側や東北地方の遅れが目立つ。能登半島地震に襲われた石川県も計画を定めていなかった。

法律で策定が義務づけられたものではないものの、東京大の片田敏孝特任教授（災害社会工学）は「能登半島地震でも道路啓開計画があればよりスムーズに復旧できた可能性がある」と語る。

未策定の地域が目立つことから、総務省は23年4月、国が主体となって計画を作るよう国交省に勧告していた。策定が遅れる理由について、ある地方整備局の担当者は「計画の対象地域が広く、考慮すべき災害対応の拠点となる施設が多いため作業に時間がかかる」と話す。

能登半島地震を受け、計画作りを急ぐ自治体もある。北陸地方整備局は新潟、富山、石川の各県や警察、電力会社などで構成する協議会を設置した。道路の被害想定を見積もり、県ごとに作業を進める。担当者は「検討課題はかなり多いが、なるべく早く作成したい」として作成を急ぐ。

国が立ち上げた関係省庁のチームは能登半島地震の初期対応を検証しており、道路の復旧を含めた物資輸送などの課題を改めて洗い出す。6月中に検証結果をまとめ、南海トラフ巨大地震の防災対策に反映する方針だ。

片田特任教授は「大規模災害時に全ての道路の寸断を防ぐことは難しい。被害を受けた場合でも、各地からの支援を有効に活用して復旧作業を早める啓開計画が必要だ」と指摘する。



## タイ国営石油、産業向けバイオ油生産へ SCGと提携

タイ国営石油精製大手のバンチャークは産業機器で使うバイオ製品の商業生産を始める。同化学大手サイアム・セメント・グループ（SCG）の化学子会社などと提携し、産業用変圧器向けに供給する計画だ。二酸化炭素（CO2）排出の少ない製品の開発を急ぐ。

バンチャーク傘下のエタノールメーカーBBGIが発表した。SCGの化学子会社と変圧器メーカーなどと連携して開発したのが「絶縁油」と呼ばれる産業向け製品だ。主に変圧器の内部での電気を絶縁したり、冷却したりするために使われる。パーム油をもとに製造したため従来の絶縁油に比べCO2排出量が少ない。

すでに国際基準を満たしたという。国内のパーム油由来のため、海外輸入品への依存度を減らせ、国産化できるメリットがある。

すでに実証生産を開始し、タイ東部ラヨンで複数顧客への供給を実現した。今後、商業生産に向けて準備を進める。具体的な商業生産開始時期は明らかにしなかった。

バンチャークはタイ国営企業で石油精製や給油所の運営などを手掛ける。再生航空燃料（SAF）など脱炭素製品の生産を急いでいる。



バン



## 電動化の進展と石油需要

原油相場の指標となる北海ブレントの価格は、イランとイスラエルが互いに攻撃するに至った4月に一時1バレル90ドルを超えたが、5月末には81ドル程度まで下げた。とりあえず中東の緊張が供給に大きな影響を及ぼさなかったからだ。

石油輸出国機構（OPEC）諸国にロシアなどが加わったOPECプラスは、6月2日の閣僚級会合で協調減産を2025年末まで続け、サウジアラビアなど有志国が続けている自主減産を24年9月末まで延長すると決めた。産油国は減産継続による価格下支えに動いた格好だ。

市場の関心は需要の行方に移っている。需要については、国際エネルギー機関（IEA）とOPECの見解の違いが目立つ。中長期の見通しで先進国がメンバーのIEAは「脱炭素化」の目標から逆算した化石燃料減少シナリオを強調し、OPECは今の需要動向の先にある変化を予測する傾向が強い。

24年の需要という短期の予測でも違いは大きい。前年比の増加分をIEAは日量110万バレルと控えめに予測し、OPECは同225万バレルと大きな伸びを見込む。

今回のOPECプラスの決定を単純に見ると、産油国側が慎重になったと受け止められる。当面の需要については、米国や中国などのマクロの景気動向の予測とは別に、石油需要で大きな部分を占める自動車の燃料としての消費の変化に注目する必要がある。電動化の進展に伴う需要の変動をどう見るか、予測が複雑になってきた。

米国の電気自動車（EV）メーカー、テスラの24年1～3月期の減収減益決算が示すように、世界でEVの売れ行きが鈍っている。一方、エンジンとモーターを併用するハイブリッド車の販売は好調だ。

「NIKKEI Mobility（日経モビリティ）」の報道によると、充電式のプラグインハイブリッド車（PHV）の4月の販売台数は世界15カ国合計で前年同月を66%上回った。EV販売の伸び悩みが指摘される中国でもPHV販売は急増。EVとPHVなどを合わせた「新エネルギー車」は4月の中国の新車販売の36%に達したという。

電動化の進展には石油の消費削減と利用継続という2つの側面がある。客観的にどう評価し需要予測に織り込んでいくかは、エネルギー転換の道筋に影響する。



## 高知市中心部の市有地、広場に整備 6月補正予算案

高知市は6日、中心部にある面積約2500平方メートルの市有地を広場として整備すると発表した。6月補正予算案にアスファルト舗装などの整備事業費約8000万円を盛り込んだ。長い間、市民が自由に立ち入りできなくなっていた一等地が動き出す。

市有地は高知県と高知市が共同運営する図書館などの複合施設「オーテピア」の隣にあり、「西敷地」と呼ばれてきた。2013年に閉校した小学校跡地の一部で、現在は砂利敷きでロープが張られており、イベント時以外は市民が立ち入りできない。

これまで市は民間事業者に土地を貸し付けて再開発する方針だったが、17年と22年に実施した公募では開発事業者が決まらず、未利用のままだった。今回、市は中心市街地の活性化に向けた施設を整備するとの方針を維持しつつ「当面の間、広場にする」と説明した。

パラソルとベンチのセットを置いて市民の憩いの場とするほか、観光バスの駐車場やイベントでの利用を想定する。25年春のオープンを目指す。記者会見で桑名龍吾市長は「一等地なので今後数年かけて将来の活用方法を考えたい」と話した。

また市は13日に始まる定例会市議会に都市公園条例の一部を改正する議案を提出する。

観光名所、桂浜公園内にある国民宿舎「桂浜荘」について、整備・管理に民間の資金やノウハウを生かす「Park-PFI制度」を導入する。1964年に開業、全面改装を経て、新型コロナウイルス禍などのため21年に休館した。改めて宿泊施設として整備する計画で、24年度内に事業者を決定する。



砂利敷きとなっている高知市中心部にある市有地。奥は「オーテピア」